

徳川慶喜	年齢	西暦と主な出来事	年齢	渋沢栄一
9月29日、江戸・小石川の水戸藩屋敷に9代藩主斉昭の七男として誕生。母は有栖川宮吉子女王。幼名は松平七郎麿。	0	1837年		
江戸から水戸へ移り、養育を受ける	1	1838年		
	3	1840年	0	2月13日、武蔵国榛沢郡血洗島村（現埼玉県深谷市血洗島）で誕生。幼名は栄二郎。
9月：一橋家へ養子入りし、家督を相続 12月：元服し、慶喜に改名	10	1847年	7	
一条忠香の娘・千代と婚約	11	1848年	8	
2月：千代との婚約を破棄 5月：一条忠香の養女・美賀子と婚約	16	1853年 ペリー来航	13	家業を手伝うため、農耕や養蚕、藍葉の購入などに従事
	17	1854年 日米和親条約調印	14	
美賀子と結婚、参議に任じられる	19	1856年	16	
第13代将軍・家定の後継者有力候補になる	20	1857年	17	
	21	1858年 日米修好条約、安政の大獄	18	従姉妹の千代（尾高惇忠の妹）と結婚
安政の大獄により、幕府から隠居謹慎の処分	22	1859年	19	
6月：父・斉昭が水戸城中で急死 9月：隠居謹慎の解除	23	1860年 桜田門外の変	20	
	24	1861年	21	江戸へ出る、儒学者・海保漁村の門下生として儒学を学ぶ
一橋家を再相続、将軍後見職に就任	25	1862年 生麦事件	22	
御所に参内し、初めて孝明天皇に謁見	26	1863年 薩英戦争	23	群馬・高崎城を乗っ取り、横浜焼き討ち計画を企てるが中止、京都へ行く
将軍後見職を辞任、禁門の変で対長州へ指揮	27	1864年 禁門の変	24	親交のあった平岡円四郎に誘われ一橋（徳川）慶喜に仕え、警備や農兵の募集等にあたる
8月：徳川宗家を相続したもの、将軍職は固辞 12月：征夷大將軍に任じられ、第15代将軍に就任	29	1866年 薩長同盟、孝明天皇崩御	26	慶喜が将軍になったことにより幕臣になる
3月：英蘭仏各国の公使と大阪城で公式謁見 9月：京都市内の小浜藩屋敷から二条城へ移る 10月：大政奉還、征夷大將軍を辞職	30	1867年 大政奉還、王政復古の大号令	27	慶喜弟（徳川昭武）に従い、パリ万博使節団としてフランスへ行く
1月：鳥羽伏見の戦い、大阪城を脱出し江戸へ海路で行く 2月：江戸城を出て、上野寛永寺で謹慎 4月：江戸城を開城、江戸から水戸・弘道館へ向かい謹慎、徳川宗家の家督を田安亀之助（徳川家達）へ譲る 7月：駿府・宝台院へ移り謹慎、徳川家による政権の幕が閉じる 船橋鐵次郎のもとで写真術を研究	31	1868年 明治と改元、戊辰戦争勃発	28	明治維新によりフランスから帰国、静岡で慶喜に面会、静岡藩仕官となる
9月：謹慎解除 10月：静岡県静岡市葵区紺屋町へ移る	32	1869年 戊辰戦争終結、東京遷都	29	1月：静岡藩に「商法会所」を設立 10月：大隈重信に説得され大蔵省へ入省、度量衡や国立銀行条例の制定に携わる
	33	1870年	30	富岡製糸場の設置主任になる
従四位に復帰	35	1872年 新橋・横浜間鉄道開通	32	
	36	1873年 徴兵令、地租改正	33	大隈らと対立し大蔵省を退官、第一国立銀行（現みずほ銀行）の頭取に就任、実業家として歩み出す
	39	1876年	36	東京府養育院事務長に就任
	40	1877年 西南戦争	37	
	42	1879年	39	大阪紡績会社の設立に尽力（1883年に開業）
正二位に昇叙	43	1880年	40	
	45	1882年 日本銀行設立	42	妻・千代コレラで死去
	46	1883年	43	伊藤兼子と再婚
	48	1885年	45	日本郵船会社創設、東京養育院院長
	49	1886年	46	渋沢を慕う経営者や管理職が集まる「龍門社」を創設
	50	1887年	47	日本初の機械式レンガ製造となる日本煉瓦製造施設株式会社を創設
静岡城下の西草深へ移る	51	1888年	48	
	52	1889年 大日本帝国憲法発布	49	
母・吉子女王死去	56	1893年	53	旧主である徳川慶喜の汚名返上をすべく、伝記執筆を開始
妻・美賀子乳がんにより死去	57	1894年 日清戦争	54	
静岡から東京・巣鴨へ移る	60	1897年	57	澁沢倉庫部を開業
有栖川宮威仁親王の仲介で大政奉還以来（30年5ヶ月ぶりに）明治天皇に謁見	61	1898年	58	
	63	1900年	60	男爵を授けられる
東京・小石川区小日向第六天町（現文京区）へ移り、終焉の地となる	64	1901年	61	女子教育の必要性を考え日本女子大学校を開校
公爵を受け華族になる、徳川宗家とは別に「徳川慶喜家」を創設、貴族院議員に就任、35年ぶりに政治に携わる	65	1902年 日英同盟	62	妻・兼子と共に欧米視察、ルーズベルト大統領と会見
	67	1904年 日露戦争	64	
	69	1906年	66	東京電力会社創設、取締役就任、京阪電気鉄道会社創設
	70	1907年	67	社団法人東京慈恵会を創設し、理事・副会長に就任
大政奉還の功により、明治天皇から勲一等旭日大綬章を授かる	71	1908年	68	
	72	1909年 伊藤博文暗殺	69	古希を機に多数の企業・団体役員を辞任、アメリカでダフト大統領と会見
七男・慶久に家督を譲り、貴族院議員を辞職、隠居	73	1910年 日韓併合	70	
孫・喜久子（のちの高松宮宣仁親王妃）が誕生	74	1911年	71	勲一等に叙せられ瑞宝章を授かる
	75	1912年 明治天皇崩御	72	
11月：風邪と急性肺炎により死去	76	1913年	73	
		1914年 第一次世界大戦	74	日中経済提携のため中国を訪問
		1915年	75	パナマ運河開通博覧会のため渡米
		1916年	76	実業界を引退、『論語と算盤』を出版
		1917年	77	日米協会創設、名誉副会長に就任
		1918年 米騒動	78	25年かけて執筆した『徳川慶喜公伝』（竜門社）を出版
		1920年 戦後恐慌、国連に加入	80	国際連盟協会創設、会長に就任、子爵を授かる
		1921年	81	排日問題善後策を講ずるため渡米、ハーディング大統領と会見
		1926年 大正天皇崩御	86	11月11日の平和記念日にラジオで平和を訴える、ノーベル平和賞候補になる
		1929年 世界恐慌	89	宮中に参内し、昭和天皇と御陪食
		1931年 満州事変	91	11月：直腸がんにより死去